

序



料理人と言えば、「寿司屋の腕前は卵焼きを食べればわかる」とか、スポーツの世界で言えば、「外角低めに投げ込むストレートを見ればピッチャーの実力がわかる」など、どの業界においても単純な動作のなかにその人の実力を見抜くためのヒントが濃縮されているものがあります。

私は、「風邪診療を見れば医者の実力がわかる」と本気で思っています。たかが風邪、されど風邪。なめたら痛い目に遭います。ただ、風邪診療に関する良書は毎年出版されています。それなのに、あえてまたここで風邪企画なのか？なぜまたこのGノートで同じテーマを繰り返すのか？答えは、「くり返すことに意味があるから」です。

風邪は日々の日常臨床で高頻度に遭遇する軽症疾患ですが、私たちはいつしかその大量の軽症疾患の診療に慣れてしまうのです。しかも、診療が下手であろうが上手であろうが、自然治癒する軽症疾患であるため大した問題も発生せず安易な方向に流れるのです。そのうえ、風邪に関しては、案外適切な教育を受けている医師は少ないのが真実です。コモンな疾患とあなどるなかれ、「風邪の病型分類」、「適切な対症療法の方法」、「風邪に似た絶対見逃してはならない疾患の数々」など風邪診療には深さと彩りがあります。

どの業界のどんな達人でも毎日、毎日、同じ基礎訓練をくり返します。私たちも定期的に風邪診療のトレーニングをきちんと受ける、あるいは周りの医師に適切な教育を提供する必要があると思います。だから「風邪診療の本をあえてくり返し出版します」と、もう一度言います。そして、もう一度言います。私は、「風邪診療を見れば医者の実力がわかる」と本気で思っています。

たかが風邪診療、されど風邪診療。なめたらアカン、風邪診療。あなたのいつもの診療、見られてますよ！

2019年7月

津山中央病院 総合内科・感染症内科
岡山大学大学院医歯薬総合研究科 総合内科学

藤田浩二